# 川崎協同病院の発達障害児に対しての取り組み

## ～地域の中で相談できる安心の場づくりを目指して～

川崎協同病院では成人のリハビリテーションだけでなく、子どもを対象としたリハビリテーションを提供しています。これまでは、子どもに対するリハビリでは、脳性麻痺に対してが多かったですが、近年では脳性麻痺よりも発達障害児の需要が増えてきていて、現在約３０人の子どもに対してリハビリテーションを実施しています。作業療法士が中心となって、食事動作やトイレ、洋服を着るなどの日常生活動作の支援や遊びの幅を広げられるような支援を中心に行っています。

日々の訓練の中で親御さんから「うちの子、鉛筆を噛んでしまうんです」「初めての課題が苦手で活動に参加できないんです」など相談を受けることが多く、学校や保育園、幼稚園を訪問した際にも先生から「授業中落ち着きがなくて、すぐに注意できるように前の席がいいのか、それとも、他の子どもたちの妨げにならないように後ろの席にしたほうがいいのか悩むんです」など集団生活場面に対して相談を受けることが多くあります。

当院の作業療法士はひとり一人子どもの特徴に応じて返答するように心がけていますが、より周囲が子どものことを理解し、お互いが生活しやすくなるお手伝いができるのではないかという思いは常にあります。

そこで、こうした思いを込めて、このほど「感覚統合（理論）について」をテーマに講演会を２日間にわたって開きました。感覚統合理論とは、「触られている感覚」や「筋肉の感覚」など様々な感覚を一人ひとり感じ方が違うために発達に個性が出ているとするという専門的な考え方で、子どもの特徴を理解するのに役に立ちます。

作業療法士によるリハビリの様子

第１回講演会風景

子どものリハビリテーションを実施している施設はまだ少なく、こうした場を通じ当院がみなさんの相談にのれるような場になれればという希望もありました。

講演会には２７人が参加、当院に通院している保護者だけでなく、保育園や学校の先生、今までリハビリテーションとは繋がりのなかったがホームページを見て来たという人もいました。

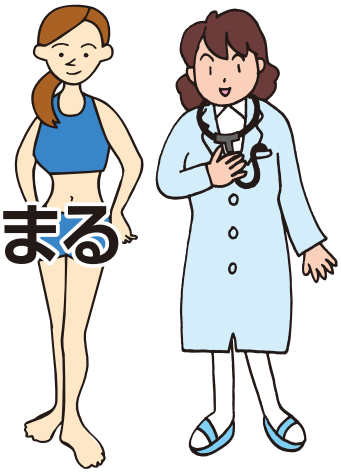
真剣に講演に耳を傾け、個別での質疑応答でもたくさんの質問がありました。アンケートには「具体的な事例も交え紹介されており、わかりやすかった。また参加したい」「少しは理解しているつもりだったが、子どもが日常生活を送ることがいかに大変なことなのかわかった。これからは優しく接することができそう」などの感想がありました。

主催者側としては、子どもと関わる専門職種として地域に対しての働きかけの必要性を感じました。まだまだ始まったばかりで模索中の活動であり、今後は間口を狭くすることなく、地域のさまざまな人たちと繋がっていけるよう活動を継続する計画です。

次回は、９月、10月を予定しています。詳しくは、ホームページにてご確認ください。

作業療法士　青島 ゆたか

TOPICS トピックス



# 新しい婦人科で女性アスリート外来はじまる

## —6つの専門外来のひとつとして—

婦人科では尿もれ・子宮脱外来に加えて、６月から産後骨盤トラブル外来、女性アスリート外来、更年期・漢方外来、月経トラブル・思春期外来、検診外来の新しい専門外来が始まりました。このなかで、女性アスリート外来は、近年ようやく注目されるようになった女性アスリートを対象にした専門外来です。彼女たちは「女性アスリートの３主徴」（①利用可能エネルギー不足：いわゆる「やせ」、②運動性無月経、③骨粗しょう症）といった問題を抱えています。

女性アスリートを対象にしたあるメディカルチェックでは、「月経不順、無月経、貧血、月経痛、過多月経、骨粗しょう症などの相談をしたいが、どこの病院に行ったらいいかわからない」という声があり、また中学生や高校生などから「婦人科は行きにくい」という悩みが出ています。

当外来は、小学校高学年から社会人までの女性アスリートを対象にしています。貧血検査は当日に結果をお伝えでき、骨粗しょう症の検査も可能です。また、全国大会や国民体育大会では、中学生でもドーピング検査の対象になる可能性があり、違反にならない薬の相談も可能です。スポーツファーマシスト（最新の禁止薬等に詳しい薬剤師）がいる近隣の薬局も紹介できます。

完全予約制です。当病院ホームページに詳しく出ています。

婦人科部長　藤島 淑子

STAFF「もうひとつの顔」

## 大きなチェロを背負って

川崎協同病院　医事課　課長　**溝口 貴子**

協同病院のなかで大きなケースを背負って歩いている姿を目撃された方もいるかと思います。それ私です。大きなケースにはチェロが入っています。

私と楽器の出会いは大学生の時でした。オーケストラ部の先輩に「チェロは万能で、旋律を奏でることもできるし伴奏もできるんだよ」と勧められました。なんてすごいんだ！こいつしかない！と持ち歩くことは一切考えずチェロを選んでしまいました。

演奏会にて

実際、自動改札にぶつかるし、雨の時は傘からはみ出すし……いろいろ大変です。でもただ大きいだけでなく、力強く美しい音色を奏でられるのがチェロの魅力です。音も低い音は男性の声域で高い音は女性の声域と言われ、人の声に一番近い弦楽器じゃないかなと思います。自分としても、歌うように、あるいは語るように弾けるようになりたいものです。

部下にアドバイスを送る溝口課長

社会人になってからは市民楽団に在籍し、年数回の演奏会に参加しています。楽器を通じて友人もでき、友人を介して他の楽団に助っ人にも行きます。練習の後や演奏会の後には、楽団の仲間とお酒を飲んで交流しています。お酒好きの私としてはこちらも楽しみの一つです。週末の楽器との時間で充電＆リフレッシュしています。

私が担当します！

# 頭の病気？心配になったら外来へ
## ～４月から脳神経外科外来開設しました！～

脳神経外科　永尾 征弥

2003 年　富山医科薬科大学（現富山大学）医学部卒。同病院脳神経外科入局。
富山大学附属病院、国立水戸病院、富山赤十字病院、東名厚木病院、済生会富山病院を経緯し、現在川崎幸病院に勤務。

脳神経外科医の永尾征弥です。専門領域は脳血管障害の外科治療・血管内治療で、川崎幸病院で日々急性期治療に携わっています。川崎協同病院とは、幸病院で急性期治療が終了した後にリハビリが必要な患者さんを紹介したり、反対に急性期治療の依頼を受けたりと、日ごろ連携しています。

この関係から、協同病院に無かった脳神経外来を2016 年４月から毎週 ( 月 ) 午後、開始することになりました。診療内容は、頭痛やめまいなどのよくある諸症状の精査治療から、脳血管障害（頭頸部主幹動脈狭窄症、脳動脈瘤など）や脳腫瘍など、より専門的な疾患まで幅広く対応しています。

2016 年現在、日本は男女の平均寿命は 83.7 歳と世界一の長寿国であり、健康寿命も男女平均で 74.9 歳と世界一です。しかし、頭の病気を患うとこの健康寿命が脅かされることも多く、厚生省からは高齢者が寝たきりとなる疾患では脳血管障害（脳卒中）が最も多いと発表されています。

頭痛やめまいといった一般的な症状にも、少なからず重大な病気が隠れていることもあります。また、脳卒中の前兆となるような手足の動かしにくさ、言葉が出てこない、呂律が回らないなどの症状は、放っておくと取り返しのつかない状態へと進行する危険性があります。

現在何らかの症状があり困っている人や、脳卒中の家系（特に脳動脈瘤は遺伝的要素が指摘されています）で心配の人は、一度受診されてみてはいかがでしょうか。

# 当院から熊本被災地支援に医師らを派遣
## ～５回にわたり医療支援や地域訪問活動を～

あくしょん action

当院は、災害に対してこれまでさまざまな支援活動をおこなってきましたが、４月 14 日から発生した一連の熊本地震に対して、全日本民主医療機関連合会の呼びかけに応えて、医師・看護師・事務職員を現地に派遣しました。４月 29 日から現在まで５回にわたり、くわみず病院（熊本市中央区）、くすのきクリニック（熊本市北区）、小規模多機能施設「八王寺の杜」（熊本市中央区）などを拠点にした支援活動に加わりました。

支援に入った、くわみず病院に掲げられた感謝のメッセージ

倒壊の危険により市民病院が使えず、かかりつけの病院･クリニックも診療困難となるなか、くわみず病院は地域から頼りにされていました。施設や避難所からの救急搬送や入院依頼、居住地からの救急受診などがあいつぎ、医師は外来診療や夜間当直などを、看護師は入浴の介助、清拭などの保清や、退院後の自宅整理支援などを、また事務は地域訪問で相談活動や救済措置の説明などをおこないました。

支援活動のあとの報告では、病院では病状や住宅事情から患者を退院をさせられない状況が続き、医療者は自分や家族も被災しながらの仕事で疲弊が深刻なこと、また、被災者は住まいや避難所についての不安が大きく、家屋整理など復興には長期的な支援を続ける必要があることが寄せられました。また、当院も地震に対する充分な備えが必要であることなどが確認されました。

医局事務室　加川 竜

地域連携室の

# おじゃまします！

# 一人ひとりの個別性を大切にした支援

## デイサービス百福（ひゃくふく）

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第14回は「デイサービス百福」です。

（取材：地域連携室　川口 洋子　高橋 靖明）

「デイサービス百福」は、介護保険制度に基づく高齢者のデイサービスです。川崎区臨海部の住宅街にあり、3階建ての1階が事業所になっています。こぢんまりとした家庭的な雰囲気で清潔感があります。おじゃましたときは、利用者のみなさんが花札やカードゲームをグループに分かれて和気あいあいとしていました。

施設名の「百福」とは、中国で古くから「百福図」という、〝福〟という漢字を100種類の異なる字体で書いた図に由来し、この図には特別な福がもたらされるという意味があることから、利用者もスタッフもみんなに福が来るようにしたいという思いで名付けたそうです。

開所は平成24年5月で、今年で5年目。利用定員は10人。現在利用者の平均年齢は約80歳で、要介護1～2の人が多く利用しています。運営にあたっては、少人数ならではのきめ細かい対応で、利用者の個別性を大切にし、できることは自分でするような支援をモットーに取り組んでいます。

利用者みんなが一律に同じことをするのではなく、個別性を大事にし、カラオケがやりたい、麻雀がしたいなどそれぞれがやりたいことや価値観を大切に、その人らしさを実現できるようにしています。

また、自分でできることは自分でするようにし、一緒に食事作りや片付けなど生活リハビリを重視しています。昼食にも力を入れていて、ふだん野菜不足の人も多いため、野菜中心のメニューづくりを心がけています。おじゃました日も、ゴーヤーやナスなどの入った夏野菜カレーに野菜を使った小鉢が食卓に並んでいて、利用者もみんな「おいしい」といって完食していました。またおはぎやおせち料理、すいとんなど季節食も充実しています。

もうひとつの特徴として、近所の人がボランティアとして麻雀や絵手紙づくりなどのお手伝いにきていることです。地域とのつながりの強さを示しています。

百福図をあしらったのれん

住宅街になじむ落ち着いた外観

今年4月から地域密着型になったこともあり、地域のつながりも大事にし、利用者だけでなく地域の人の相談にのれる「お助け所」になれればと考えているそうです。また、本人にとって来てよかった、これからも通いたいと思ってもらえるような事業所づくりをしていきたいと管理者の佐藤信太郎さんは話しています。

**●川崎協同病院へひとこと・・・**

この場を使ってまだサービス利用をしていない地域の方々の健康づくりを、一緒に協力してやっていただけたらと思っています。協力医療機関になってもらっており、今後ともよろしくお願いします。

**●おじゃまして・・・**

一人ひとりの個別性を大切にしながらも、利用者もスタッフもみんなが仲良くしていて、アットホームな雰囲気を感じました。

株式会社　百福塩浜
デイサービス百福
管理者　佐藤 信太郎　氏
川崎市川崎区塩浜1－9－10
044－266－0158

★お知らせ：6月から川崎協同病院の地域連携室連携課師長が川口洋子にかわりました。今号より川口と高橋で「おじゃまします」を担当します。

## 広報係のひとりごと

2年前に地域連携室に着任し、「笑顔のひろば」の編集にかかわることになりました。それまでは病棟、外来、訪問診療を経験して、在宅医療のことを大体理解していたつもりでした。しかし、地域連携室に来てから、「笑顔のひろば」で連載の“おじゃまします”の取材をすることになり、地域の福祉・介護分野の幅広さや取り組みを知り、ただただ感心するばかりでした。そして、福祉分野ではあまりにも無知だったことを知りました。

もっともっと知らない世界に行ってみたい気がしますが、今年の6月をもって地域連携室から異動となり編集を離れることになりました。新しい職場では目まぐるしい日々が続いています。なかなか機会はありそうにないですが、積極的に外の世界を覗いてみようと思います。

副看護部長　鍵屋 真理

笑顔のひろば
vol.34　夏号
発行：2016年8月30日　川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本2-1-5　TEL:044-299-4781（代）　FAX:044-299-4788　http://www.kawasaki-kyodo.jp